

土地改良事業に伴う準絶滅危惧植物 「コウホネ」の移植による保護・保全活動

ポレポレ自然観察会

石川県

1 はじめに

- ・近年、能登半島でも農地の大型化の土地改良事業が進められており、石川県七尾市池崎町で、用水路改修工事に伴い水路に生育する石川県の準絶滅危惧種「コウホネ」について、現在、地元の要望により移植工事の準備が行われている。
- ・一方、地元では移植後の生育状況の調査を求める声があり、地元から相談を受けた植物専門家から、当観察会に調査協力の打診があった。
- ・そこで、地域に密着した土地改良事業であり、公共事業の先駆的な検証調査活動として、地元の「こうぼねの会」と連携し、石川県の準絶滅危惧種である「コウホネ」の保護・保全に取り組むこととした。

2 調査活動の趣旨・目的

- ・「コウホネ」は、日本原産で北海道から九州まで広い地域に自生するスイレン科の植物で、地域開発や河川改修等で生育地が減少しており、石川県を含め全国の 27 府県で絶滅危惧種又は準絶滅危惧種に指定されている。
- ・石川県七尾市池崎町では、河川の洪水対策工事と共に、農地の大型化の土地改良事業が進められており、水路の改修工事で生育する準絶滅危惧種「コウホネ」の移植が必要となった。
- ・地域に密着した土地改良事業であり、公共事業の先駆的な検証調査活動として、地元の「こうぼねの会」と連携し、移植前後の生育状況の定期的観察とともに、過去の資料を参考に県内の代表的な生育地での生育環境の追跡実態調査を行い、石川県内での準絶滅危惧種「コウホネ」の保護・保全に資する。

「コウホネ」の特徴

根茎は白くて肥大しており、やや横に這い、多数の葉をつける。葉は水中葉と水上葉がある。いずれも長い葉柄とスイレンの葉の形に近いが、やや細長い葉身をつける。水中葉は薄くてやや透明で、ひらひらしている。冬季には水中葉のみを残す。暖かくなるにつれ、次第に水面に浮く葉をつけ、あるいは一気に水面から抽出して葉をつける。水上葉はやや厚くて深緑、表面につやがある。花期は 6 月から 9 月ごろで長い花茎の先端に 1 つだけ黄色い花を咲かせる。



3 助成金贈呈式

- (1) 開催日時 令和元年6月18日 11:00～13:00
- (2) 開催場所 京都市下京区烏丸通四条 からすま京都ホテル
- (3) 出席者 五十嵐会長の代理として小林正樹事務局長が出席



調査活動の説明中の小林事務局長



受賞参加者と主催者・選考委員との記念写真

4 調査活動の概要

- (1) 調査期間 令和元年6月～令和2年2月
- (2) 調査場所 石川県七尾市池崎町
- (3) 調査対象 石川県指定の準絶滅危惧種「コウホネ」
- (4) 調査指導 NPO法人石川県自然史センター
理事長 高木政喜氏
- (5) 現地協力者 「こうほねの会」 代表仲島 映氏外
石川県中能登総合農林事務所
土地改良専門員 瀬川学氏

地図



石川県七尾市池崎町の地図

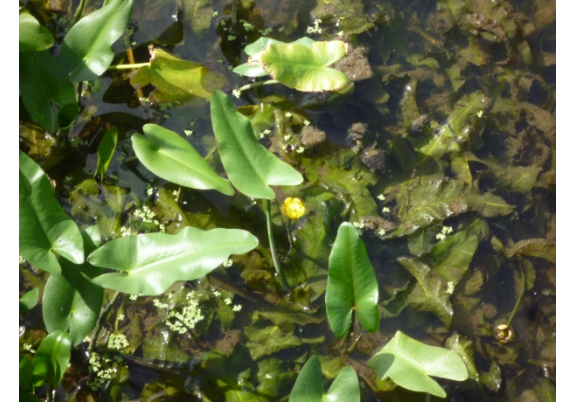


5. 七尾市池崎町の準絶滅危惧植物「コウホネ」の移植に関する生育観察調査

令和元年6月～令和2年1月までの間、最低月1回以上現地調査を実施した生育観察結果の概要は次の通り。

年月日	「コウホネ」の移植に関する生育観察調査の概要	
令和元年 6月5日	用水路には「コウホネ」の花が咲いている。移植前のもの。	
		
	6/4の事前協議で高木先生の助言を踏まえ、現地調査（6/5）の後、七尾市小島町の石川県中能登農林総合事務所を訪問し、土地改良部整備課瀬川 学土地改良専門員から、池崎町の「コウホネ」の移設計画の説明を受けた。	
令和元年 6月13日	用水の水位が上がっており、泥水でコウホネの葉が見えにくくなっている。	
		
	 コウホネの移植予定地の用水路	 拡張工事前の用水路

年月日	「コウホネ」の移植に関する生育観察調査の概要			
令和元年 7月8日	前回（6/13）より水位が下がっており、水の濁りも少なかった。 開花の数も多いが、満開と云える感じではない。			
				
				
令和元年 7月17日	水路の周辺の草刈りがされていた。 上流部では、土地改良工事中であったが、コウホネの移植工事はまだ。			
				
				

年月日	「コウホネ」の移植に関する生育観察調査の概要	
令和元年 8月8日	前回の草刈りした後、もう草が生い茂っている。水路は割合綺麗になっていた。	
		
		
		
		

年月日	「コウホネ」の移植に関する生育観察調査の概要	
令和元年 8月25日	地元の長澤町会長、こうほねの会の仲島代表ほか会員の方々と高木理事長らと現地調査を実施。現地でも移植等について色々意見があるとのこと。 新しく「三つの池」でもコウホネ群落を観察。	
	 コウホネの花	 コウホネの採取
	 池崎町の用水路	 三つの池のコウホネ群落
		
	 杉森町の用水路のコウホネ群落と ヒメミクリ群落	 ヒメミクリの花 杉森町の用水路。

年月日	「コウホネ」の移植に関する生育観察調査の概要	
令和元年 9月9日	8月に実施したコウボネの採取・現地調査後、コウホネの会代表仲島氏宅を訪問。留守現地の9月分の観察を実施。 七尾市小島町の中能登農林総合事務所を訪問、コウホネの移転計画について瀬川土地改良専門員から説明を受ける。	
		
		
		
		

年月日	「コウホネ」の移植に関する生育観察調査の概要	
令和元年 10月16日	台風19号の豪雨後の為、水路のコウホネの水中葉には泥が付着している状態 今回はコウホネの花は確認できなかった。 なお、仲島代表の電話では、水中の泥だらけの花は確認できたとのこと。 中能登農林総合事務所の瀬川専門官の話では、移植時期については未定とのこと。	
		
		
令和元年 10月22日	移植工事に先立ち、現地でコウホネ、ミクリの生育分布調査をする地元関係者。 地元の保護団体のメンバー（仲島さん親子、大沢さん、辻口さん）と石川県中能登農林総合事務所瀬川専門員の皆さん。	
		
		 

年月日	「コウホネ」の移植に関する生育観察調査の概要	
令和元年 11月2日	11月に入り、近く工事が開始されるとのこと。	
		
		
令和元年 11月13日	工事が近くで始められているが、移植工事はまだのよう。	
		
		

年月日	「コウホネ」の移植に関する生育観察調査の概要		
令和元年 12月10日	12月に入り、圃場整備事業が本格化している。 水路の「コウホネ」の移植はまだ。工事の濁水でコウホネの水中葉は見えない。		
			
			
令和2年 1月22日	圃場整備事業が進行中 水路の「コウホネ」の移植はまだ行われていないが、水路の工事でコウホネの根の一部が観察できた。帰りに仲島氏宅を訪問（留守）		
			
			

6. 「コウボネ」の実体顕微鏡による観察

①顕微鏡の発注

- ・ 令和元年 7 月 1 1 日：石川県立自然史資料館で、高木政喜氏の指導の下、顕微鏡取り扱い業者と実体顕微鏡の基本仕様について協議。
- ・ 令和元年 8 月 2 日：機材納入・支払

②「コウボネ」の検体採取

採取時期	令和元年 8 月 2 5 日	採取場所	七尾市池崎町 県営ほ場整備区域
参加者	高木政喜先生、 小林事務局長	地元関係者	池崎町 町会長 長澤助則 4 名 こうほねの会代表仲島映外 2 名

長澤町会長、こうほねの会仲島代表と仲間の皆さんのご協力でコウボネを採取
さらに、他のコウボネ生育地や池、隣の杉森町でヒメミクリ群落も案内して頂く。



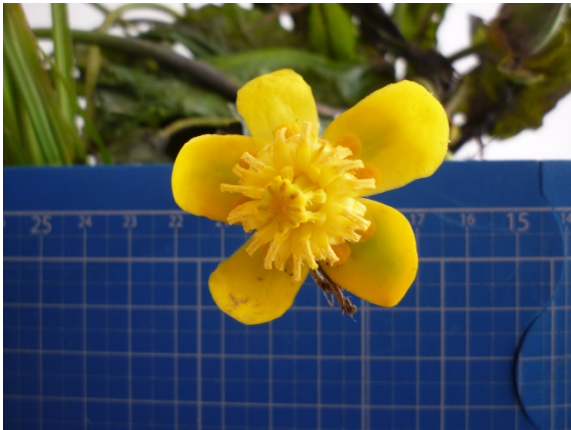
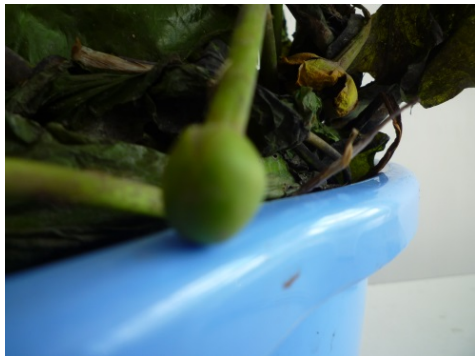
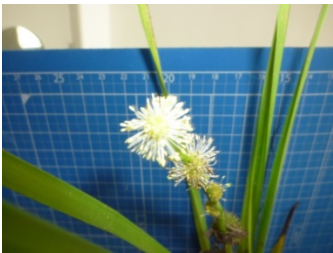
水深：20～25センチ



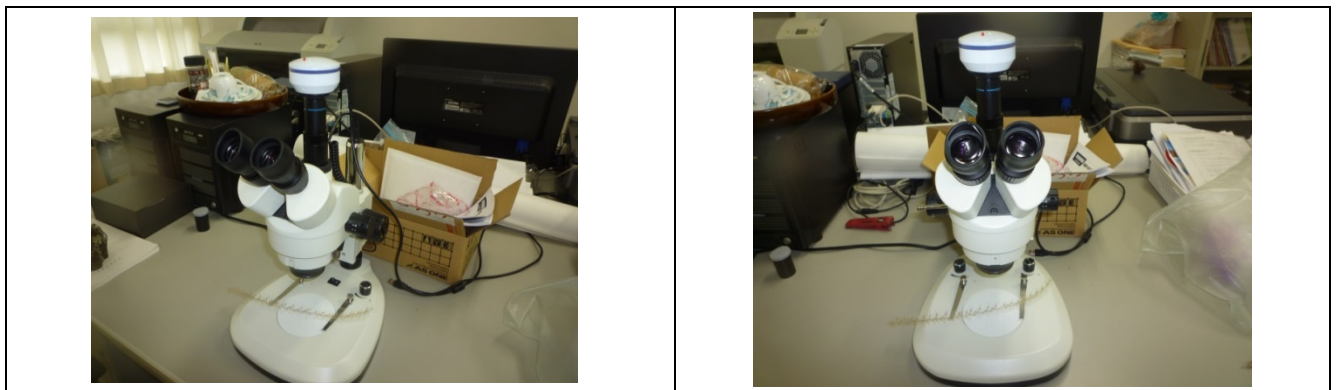
③「コウボネ」の形態・計測観察結果の概要

観察日	令和元年8月26日	観察場所	石川県立自然史資料館 実験室
計測員	小林正樹	指導者	高木政喜先生

高木先生の指導の下、前日採取した「コウボネ」の検体について時間の関係から外形の形態の計測観察を実施した。計測はノギスを利用

【水上葉】長さ：85～108MM 幅：55MM 		【花】径：32～35MM 雌しべの径：10MM 	
【蕾】径：10MM 		【果実】：径：18 長さ：28MM 	
 指導中の高木先生		【地下茎】 径：20MM 	
	 ヒメミクリの花	 ヒメミクリの果実	

④「コウボネ」の実体顕微鏡による観察結果の概要
実体顕微鏡



観察日	令和元年 10 月 24 日	観察場所	石川県立自然史資料館 実験室
観察者	小林正樹	指導者	高木政喜先生

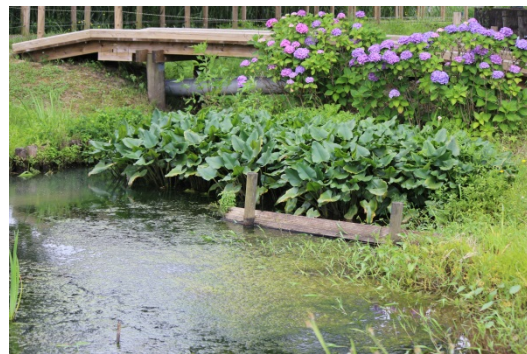
10月22日の移植前のコウボネ、ミクリの生育分布現地調査の際、仲島会長に依頼して採取した「コウボネ」を顕微鏡で観察。



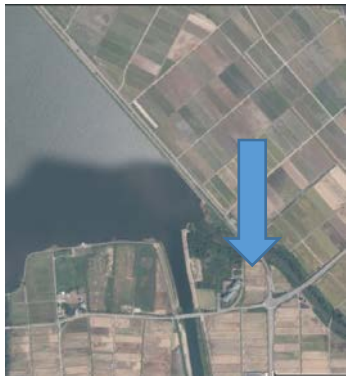
7. 石川県内での「コウホネ」の生育地の現状調査

「コウホネ」について、昭和56年3月に公表された「石川県の池沼における水生生物」（石川の自然第5集）や他の調査報告書及びインターネットを参考に、その主な生息地について現状調査を実施した結果は、次の通り。

①木場潟（小松市）（昭和56年3月：石川の自然第5集）

年月日	「コウホネ」の生育地現状調査の概要	
令和元年 6月24日	40年余り前の昭和55年に現地調査が行われているが、木場潟周辺は、昭和48年3月石川県立都市公園（広域公園）「木場潟公園」として都市計画決定され、事業年度は昭和47年度から平成18年度に亘り総事業費約110億円で整備されている。従って、当時と木場潟周辺の自然的環境は大きく変わっている。特に潟周辺が全て矢板により護岸工事が行われており、潟を生育地としていた「コウホネ」は、整備された公園に一部移植されていた。 ●中央園地（せせらぎ水路）   ●南園地（潟の花園）   ●西園地（水生植物園）  水生植物園として整備されているが、「コウホネ」が移植された池（生育地）には、表示はあるが確認できなかった。他の水生植物が繁茂し、消滅したものと思料される。 ●西園地には、「コウホネ」の移植地は整備されていない。	

②柴山潟（加賀市）（河北潟総合研究・2009年12月：柴山潟の浮葉植物の分布と現状）

年月日	「コウホネ」の生育地現状調査の概要	
令和元年 6月24日 「御橋川」に係る橋を中心に「コウホネ」の群落は写真のように確認できたが、開花した花は確認できなかった。 7月13日に再度調査した結果、開花を確認した。	2007年夏季に金沢星稜大学番匠尚子氏・永坂正夫氏が調査した「柴山潟の浮葉植物の分布と現状」の中で、柴山潟に流入する「御橋川」の河口付近に「コウホネ」の群落が生育していることが報告されている。 今回、報告書に記載されている「分布図」を基に現地調査をしたところ、約12年経過しているが、分布図どおり「コウホネ」の群落を確認できた。    	
		7/13 開花の確認写真 
	 出典：河北潟総合研究 2009年12月発行	

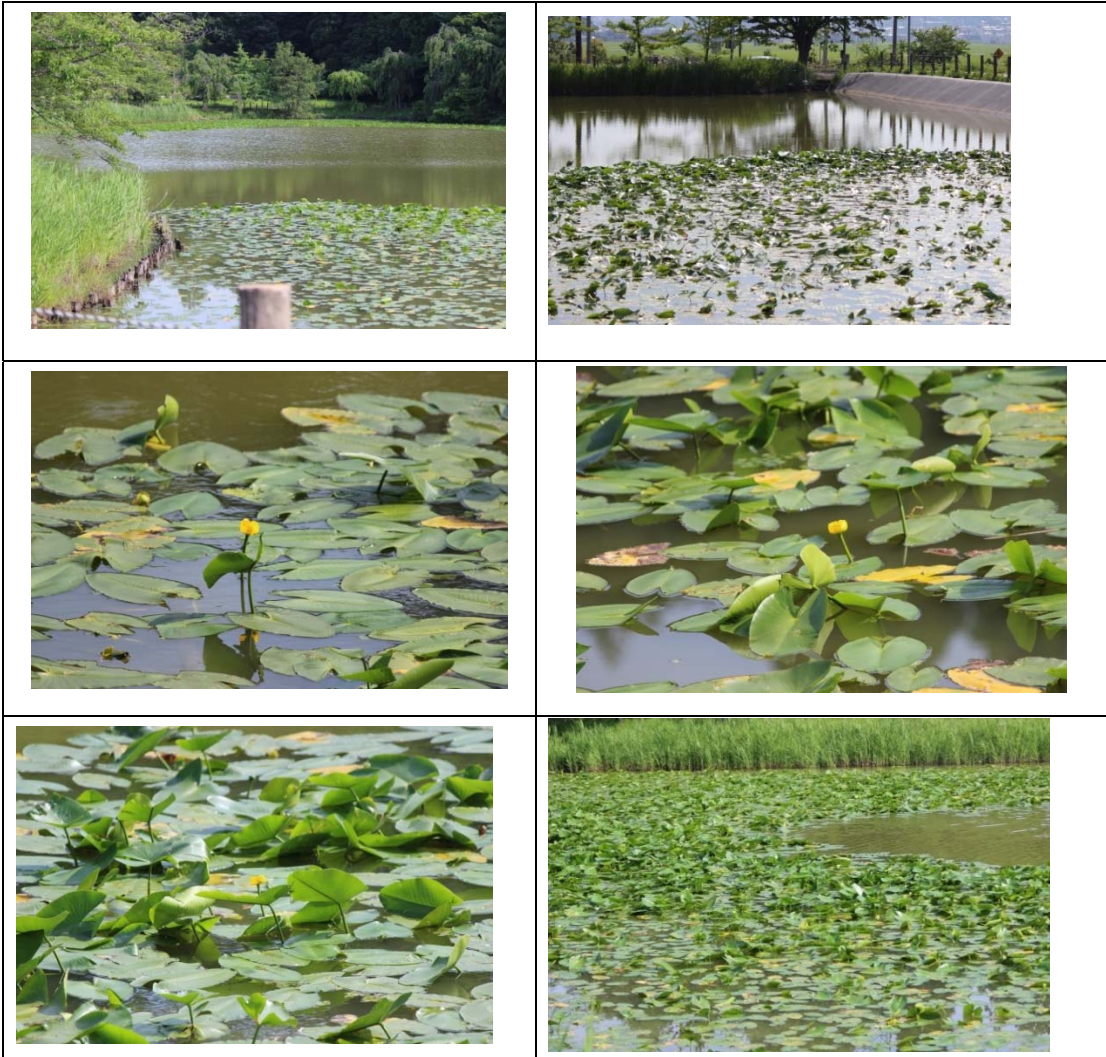
③鴨池（加賀市・ラムサール条約登録湿地）【インターネット情報】

年月日	「コウホネ」の生育地現状調査の概要	
令和元年 6月24日	インターネット情報で「コウホネ」が紹介されていた「加賀市鴨池観察館」（1984年に加賀市建設）を訪問したが、解説員の話では「コウホネ」群落の生育地は舟でないといけない池の縁にあり、望遠鏡モニターの映像でしか観察できなかった。	
		

④長田の池（志賀町）（昭和56年3月：石川の自然第5集）

年月日	「コウホネ」の生育地現状調査の概要	
令和元年 6月26日	昭和56年3月発行：石川の自然第5集には、旧志賀町長田地区にある「農業用ため池【長田の池】」にコウホネが自生していると記録されており、今回調査したところ地形上近寄ることは出来なかったがコウホネの群落を望遠レンズで撮影することが出来た。	
		
	ため池の全景 （ため池の堰堤から撮影）	ため池の奥のアシ原の前に コウホネの群落が確認された
		
	堰堤の排水路付近に数株を確認	なお、コウホネの花は確認できなかった

⑤鉢伏学校堤（かほく市宇ノ気）（昭和５６年３月：石川の自然第５集）

年月日	「コウホネ」の生育地現状調査の概要
令和元年 6月26日	昭和５６年３月発行：石川の自然第５集には、旧宇ノ気町鉢伏地区にある「農業用ため池【鉢伏学校堤】」は「ウノケ総合公園」内にあり、コウホネが自生していると記録されており、今回調査したところコウホネの群落を確認。  「ウノケ総合公園」内にあり、一般市民がコウホネを観察する最も安全な生育地と云える。 

⑥兼六園の金城池（金沢市）【インターネット情報】

年月日	「コウホネ」の生育地現状調査の概要
令和元年 7月1日	インターネット情報で「コウホネ」が紹介されていた「兼六園の金城池」では、「コウホネ」群落があり、一部開花していることを確認できた。  「兼六園の金城池」
	 
	 

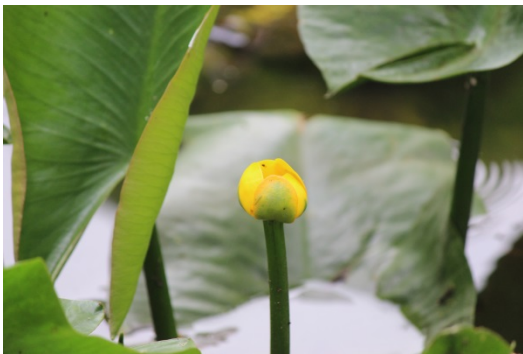
⑦津幡森林公園（津幡町）【インターネット情報】

年月日	「コウホネ」の生育地現状調査の概要
令和元年 7月1日	津幡森林公園の係員の情報で「薬草園」の現場へ行ったが、夏草が覆っていて道が分からず、「クマ出没注意」の看板があり安全確保の為、調査を中止した。 

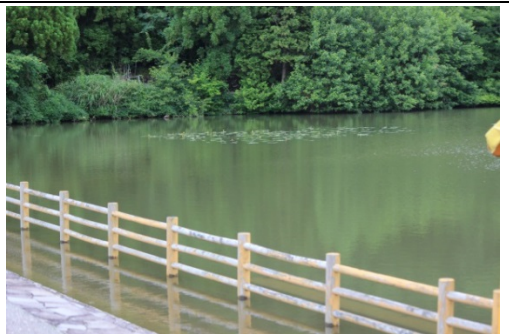
⑧十二町潟水郷公園（氷見市）【インターネット情報】

年月日	「コウホネ」の生育地現状調査の概要
令和元年 7月1日	富山県氷見市の十二町潟水郷公園に「コウホネ」が生育しているとの情報で現地を訪問した。除草作業中の係の人の話ではスイレンの池に生育しているのではとの話で調査したが、「コウホネ」とは違う水生植物と思われる。なお、十二町潟水郷公園は国指定のオニバスの発祥地である。    

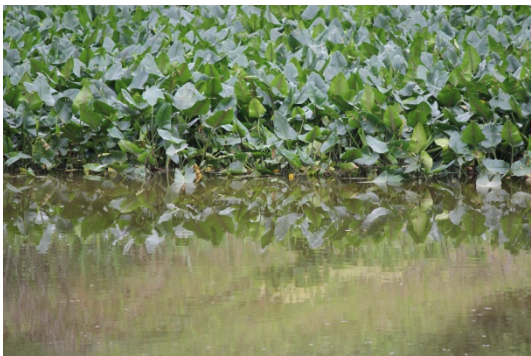
⑨金沢北部公園（金沢市）【インターネット情報】

年月日	「コウホネ」の生育地現状調査の概要	
令和元年 7月2日	金沢市森本地区の「金沢北部公園」に「コウホネ」が生育しているとの情報で現地を訪問した。ハス池の奥にコウホネ群落を確認。	
		
		

⑩（中能登町鳥屋川田古墳公園大池）【昭和56年3月：石川の自然第5集】

年月日	「コウホネ」の生育地現状調査の概要	
令和元年 7月8日	・中能登町の農林課を訪問し、石川の自然第5集に記載されている旧鳥屋町のあかむけの池を調査した結果、その名前の池は古墳公園の大池ではないかとのことで、現地調査した。 ・その結果、大池の中に、大きな群落が最低2つ確認できた。	
		
		

⑪（志賀町大島ドダ池）【昭和５６年３月：石川の自然第５集】

年月日	「コウホネ」の生育地現状調査の概要	
令和元年 ７月８日	・ 志賀町役場でドダ池の場所を伺い、現地に向かった。 ・ 石川の自然第５集で報告されている通り、大きな群落を確認できた。	
		
		

⑫（能登半島・珠洲市・能登町）【独自調査】

年月日	「コウホネ」の生育有無に関する現状調査の概要	
令和元年 ７月１０日 晴れ	昭和５６年３月：石川の自然第５集では、奥能登方面では「コウホネ」の確認記録がないため、今回、幾つかの湖沼（池）について現地調査したが、「コウホネ」は確認できなかった。	
	「珠洲市雁の池」 	「蛸島大池」 
	野々公園・亀谷池」 	珠洲消防署近隣の池 

⑬（加賀市宮地新堤）【昭和５６年３月：石川の自然第５集】

年月日	「コウホネ」の生育地現状調査の概要		
令和元年 7月13日	県道を挟んで池があり、右側の池にはコウホネを確認。左側の池にはヒシのみ確認。コウホネの花は確認できなかった。		
			
			

⑭（加賀市美岬大島の池）【昭和５６年３月：石川の自然第５集】

年月日	「コウホネ」の生育地現状調査の概要		
令和元年 7月13日	現場の池を探したが道路を間違ったのか確認できず。次回、再度挑戦する。		
令和元年 7月23日	・志賀町立図書館で現地の地図を入手し、再度、現地調査を実施したが、大島の池では「コウホネ」は確認できなかった。環境の変化で消滅したものと思料される。		
			

8. 県外での「コウホネ」の生育地の現状調査

石川県外での「コウホネ」の生育地の現状調査の結果は、次の通り。

①「福井県あわら市赤尾地区・北潟湖赤尾湿地」【インターネット情報】

年月日	「コウホネ」の生育地現状調査の概要
令和元年 7月13日	赤尾湿地は、北潟湖の南側の湖畔にある約3ヘクタールの湿地帯。 ヨシ原の広がる湿地の中に福井県随一のコウホネ群生地がある。 福井県準絶滅危惧種 板張りの通路があり、ヨシ原を進んでいくとコウホネの群生地がある。 石川県には、これほどの湿地もなくコウホネの群生地もないのではないかな。
 	
 	
 	

②【新潟県新潟市・新潟県立鳥屋野潟公園】【インターネット情報】

年月日	「コウホネ」の生育地現状調査の概要	
令和元年 7月15日	・新潟県立植物園（新潟市秋葉区・旧新津市）のHPに植物園の花便りとして「コウホネ」の記載があったことから同植物園の調査に訪問したが、同園の水辺の草花園にはコウホネが生育していないとのことであった。 ・係の人から新潟市の「潟のデジタル博物館」に新潟市内のコウホネの主な生育湖沼が紹介されており、植物園の近くの県立鳥屋野潟公園の現地調査を進められた。 ・新潟県立鳥屋野潟公園の鐘木地区は「スワンスタジアム」に隣接しており、その湖畔の一角に「コウホネの大群落」があった。	
		
		
		
		

③【滋賀県草津市 草津市立水生植物公園みずの森】【インターネット情報】

年月日	「コウホネ」の生育地現状調査の概要
令和元年 9月5日	・琵琶湖周辺には「コウホネ」の生育地が報告されているが、今回、琵琶湖の水生植物を多数栽培していることから同植物公園を訪問調査。 ・コウホネも栽培されていた。
	
	
	
	

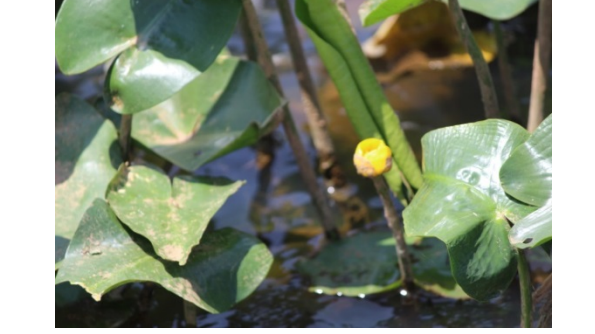
9. 石川県内での「コウホネ」の移植事例調査

県内での「コウホネ」の移植事例として加賀市柴山潟放水路について、定期的に現地調査を実施した結果は、次の通り。

調査時期	調査先	調査結果の概要
令和元年 6月24日	加賀市柴山潟 放水路	平成20年度に柴山潟地区環境配慮工事として移植された「コウホネ」を今回、現地調査を実施した。 移植工事から丁度10年経過していたが、移植した水路の中央に移植後とほぼ同じ群落を形成していることを確認できた。 なお、当日は、開花した花は確認できなかった。
   		



移植工事から約2年後の平成23年度に作成された移植工事後の経過調査をまとめた報告書の概要版

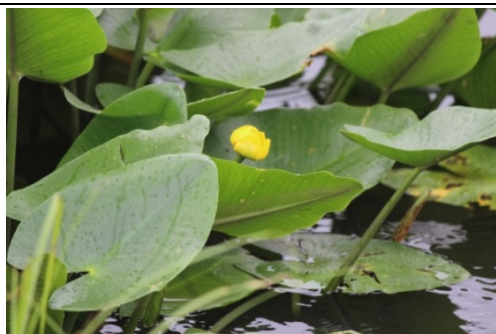
調査時期	調査先	調査結果の概要
令和元年 7月13日	加賀市柴山潟 放水路	前回（6/24）調査で開花していなかったのに、再度現地調査したが、花は確認できなかった。
		
		
		
		
令和元年 8月12日	加賀市柴山潟 放水路	6月、7月の調査では、いずれも開花が確認されなかったが、今回、初めて1輪ではあったが開花を確認できた。
		
		
		
		 下流側に別の群落を確認

調査時期	調査先	調査結果の概要
令和元年 9月6日	加賀市柴山潟 放水路	・ 6月、7月、8月に続き、9月の調査を今回実施。 ・ コウホルは8月に続き花を確認。 ・ 周辺では稲刈りが始まっている。
		  
令和2年 1月11日	加賀市柴山潟 放水路	冬季のコウホネ移植地の確認調査に行ったが、水路が濁っており、コウホネ群落は確認できなかった。
		
		

10. 県内外での「コウホネ」の移植事例調査

① 鳥取県湖山池公園での「コウホネ」の移植事例調査

調査時期	調査先	調査結果の概要
令和元年 7月21日	鳥取県鳥取市 福井地区 こやまいけこうえん 湖山池公園内 休養ゾーン ・現地では、人工池の一角にコウホネの群落と花を確認。	・鳥取市ないにある日本最大の池（汽水）で、平成25年4月に人工池に「大名ハス」の移植をした際、コウホネも3株移植したとの情報をインターネットで入手したことから、今回の現地調査となった。 【インターネットの情報】 「湖山池汽水化に伴い、福井地区の湖山池公園（休養ゾーン）にあるハス観賞池のハスを移転していましたが、この度ハス観賞池の淡水化工事が完了し、平成25年4月9日（火）に同池へのハスの移植を行いました。移植を行ったハスは、大名ハスが8株、大賀ハスが35株です。またハスのほか、水生植物のコウホネ（鳥取県の準絶滅危惧種に指定）の苗を3株程度、植付を行いました。



② 福井県高浜町での「コウホネ」の移植事例調査

調査時期	調査先	調査結果の概要
令和元年 7月23日	福井県高浜町 高浜町役場 産業振興課 青葉山麓研究所	・2018/10 ため池の改修工事に伴い、町内の水田に移植。 ・高浜町は、コウホネの薬草化事業として取り組んでいる。 ・このため、移植地の案内は出来ないとのことで、本事業の研究を担当している青葉山麓研究所を訪問調査 ・産業振興課長補佐であり、研究所の主任研究員の田原文彦氏から説明を受けた。移植時期が重要とのこと。 ・七尾市池崎町で圃場整備事業でコウホネの移植計画があるので、石川県関係者に田原氏を紹介する旨伝言。



ため池の写真（福井県レッドデータから引用）

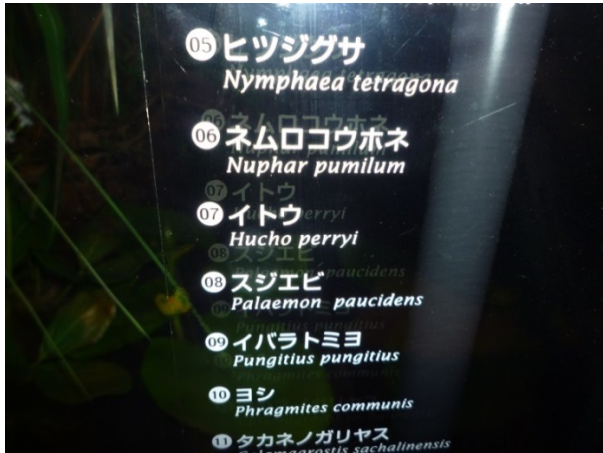


地元新聞に掲載された移植後のコウホネ写真



1 1. 「コウホネ」の文献学術調査

国立科学博物館での「コウホネ」の文献学術調査の結果は、次の通り。

調査時期	調査先	調査結果の概要
令和元年 7月5日	東京都上野公園 国立科学博物館	国立科学博物館地球館の1F「地球史ナビゲーター」コーナー角の生物の多様性等を紹介する湿原の中で「ネムロコウホネ」の写真を発見した。
国立科学博物館は「自然史に関する科学その他の自然科学及びその応用に関する調査及び研究並びにこれらに関する資料の収集、保管（育成を含む）及び公衆への供覧等を行うことにより、自然科学及び社会教育の振興を図る」ことを目的とした博物館である。		
		
ネムロコウホネ ネムロコウホネはエゾコウホネとも呼ばれ、本州の高山から北海道に分布する。コウホネは葉が水面から立ち上がるがネムロコウホネは水面に浮かぶことが大きな相違点。水中葉、浮葉、抽出葉の使い分けは、単なる光獲得の利得だけではなく、光合成に必要な二酸化炭素の獲得と廃棄物である酸素の放出効率などにも関係があるようだ。ネムロコウホネは泥炭地の池が故郷のようで、抽出葉を持たないことは、水面を覆っていたほうが、二酸化炭素を獲得するには有利であるとのことなのだろう。		 紹介ビデオの中の「ネムロコウホネ」

12. 「コウホネ」の特別講演会への参加

- (1) 開催日時 令和2年2月16日 13:30～15:00
- (2) 開催場所 石川県立自然史資料館2F：コミュニケーションホール
- (3) 演題 水生植物コウホネ属（スイレン科）の多様性：分類から保全まで
- (4) 講師 新潟大学教育学部 志賀 隆准教
- (5) 出席者 35名（小林正樹事務局長が参加）

地元七尾市池崎町の仲島「こうほねの会」会長のほか、瀬川県職員ら8名も参加

1. 水草ってどんな植物

- ・水生植物（いわゆる水草）：一生のうちのある時期に必ず水中環境を必要とする植物
- ・湿生植物：水辺や湿地で生育している植物
- ・水生植物の生育形：水生植物は生育様式から、抽水植物、浮葉植物、沈水植物、浮遊植物に分けられる。
- ・水生植物の特徴：異形葉（水生植物の多くは水中葉と浮葉や抽水葉をつける）

2. コウホネの仲間ってどんな水草

- ・抽水、浮葉、沈水性の多年生水草 ・北半球の温帯域に2～20数種
- ・分類群間で多数の自然雑種（形態の変異が大きすぎて分類群を認識することが難しい）。
- ・日本のコウホネ

コウホネ ベニコウホネ ヒメコウホネ ネムロコウホネ、オゼコウホネ

オグラコウホネ ベニオグラコウホネ シモツケコウホネ サイコクヒメコウホネ

- ・葉（沈水葉）の形態

葉足が細長い・・・コウホネ、シモツケコウホネ

葉足が円い・・・ヒメコウホネ オグラコウホネ ネムロコウホネ

3. コウホネの雑種・・・サイジョウコウホネ ナガレコウホネ

4. コウホネの分布拡大の方法

- ・水散布：種子が水に浮いて流で分布拡大 ・根茎：最大6m程度まで成長
- ・虫媒：花蜂、ヒラタアブ

5. 開発から守る

- ・シモツケコウホネの保全（日光市 栃木県内で4集団）
- ・盗掘から守る（DNA鑑定 国内希少野生動植物に指定）



高木理事長の挨拶



会場での標本展示



講演後の有志による
志賀講師との茶話会

13. おわりに

- 本件調査活動に当観察会が取り組んだ契機は、NPO法人石川県自然史センターの高木政喜理事長（植物分類学専門）との環境アセスに関する雑談の中で、七尾市池崎町の土地改良事業区域内に石川県指定の準絶滅危惧種「コウホネ」の移植工事問題で、地元の中で公共事業の推進を主張する側と「コウホネ」の保護・保全を主張する側の意見の相違があることが話題となったことであった。
- その後の協議の中で、当観察会の小林事務局長が、現職時代（石川県職員）に石川県中能登総合事務所長として七尾市に赴任していた経験から、この問題を担当することとなり、地域に密着した土地改良事業であり、公共事業の先駆的な検証調査活動として、地元の「こうほねの会」と連携し、移植前後の生育状況定期的観察とともに、石川県内での準絶滅危惧種「コウホネ」の保護・保全のため過去の資料を参考に生育環境の実態を把握することとなった。
- 七尾市池崎町の現地調査や県内の各地の生育地調査だけでなく、移植事例調査では石川県内の加賀市柴山潟も度々調査、鳥取砂丘で有名な鳥取の湖山池公園まで調査し、地元関係者に情報を提供するなどし、「コウホネ」の移植に対する不安の解消に努めた。
- また、今回の調査活動の指導・助言を頂いた高木政喜氏は、金沢での植物講演会に日本の「コウホネ」研究の第一人者である新潟大学の志賀隆准教授を講師に招き、「コウホネの多様性：分類から保全」をテーマに大変有意義な機会を提供して下さいました。
- 当日は、県内の植物専門家だけでなく、石川県中能登総合農林事務所の担当職員や七尾市池崎町の区長をはじめ「こうほねの会」会長を含む地元関係者も多数参加するなど準絶滅危惧種「コウホネ」の保護・保全への関心の高さが伺えた。

14. 謝辞

この報告書の取りまとめる時点では、「コウホネ」の移植工事は、工事全体のスケジュールの関係から当初計画から大幅に遅れている現状である。

それでも、今回の調査活動は、地元の方々から立場を越えて受け入れられており、引き続き期待もされていることに感謝したい。

特に、地方の弱小任意団体である当観察会の準絶滅危惧種「コウホネ」の調査活動について、平成28年度の「アカテガニ」の調査活動に続いて2回目の助成金事業としてお認め頂いた選考委員の八木橋惇夫運営委員長以下の皆様と宝酒造株式会社関係者の皆様のご厚意に改めて深く感謝申し上げます。